

ふるさと Something NEWS

第19回

東北復興にもチャレンジ・スピリットを！

【後編】

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事
佐藤建吉

▼「チャレンジ精神」 ×東北復興＝未来志向

第10回からのコラムのまとめをしたい。キーワードとして、ブルネル父子の「チャレンジ精神」×東北復興＝未来志向という等式を掲げた。これを、「ブルネル」・「父子」、「チャレンジ」・「精神」、「東北」・「復興」、「未来」・「志向」の8つに分けて概説することにする。

▼ブルネル・父子

「ブルネル」については、本コラムの前編・第10回で述べたように、フランスがルーツであるが、産業革命で息吹くイギリスで活躍したエンジニアであった。

父マーク・ブルネルは、シールド工法の発明者で、テムズ河底トンネルに適用した。彼は発明家でもあり、異国のイギリスで生活するために20件以上の特許を取得し、イギリスで生き残るためのポートフォリオとした。結果、マークは、「サー」の称号を得た。子イザムバード・ブルネルは、父の期待に応え、彼は父を土台として、父以上の業績を成し

▼チャレンジ・精神

「チャレンジ」については、多くの人が肯定できず、むしろ否定した。成る長期や発展期に特許、特許と騒ぐ無駄を除いて社会の発展を第一とした。「テクノロジ」・「ファースト」、「デザイン」・「ファースト」のエンジニアという人も多い。なるほど、理解できないことではないが、「終活」という言葉があるように、その日に向けて企画や設計をしようとしている。

▼東北・復興

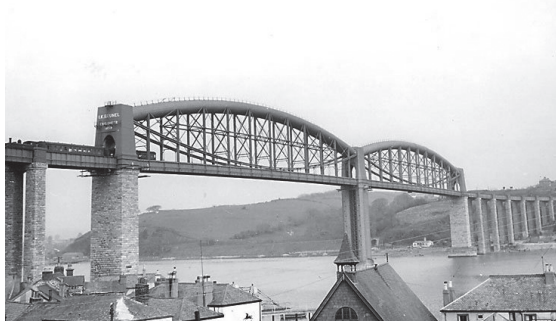
2011年3月11日の東日本大震災、本年6月18日の山形県沖地震。大災害では、被災状況がメディアでも取り上げられ、また「東北」が注目され、福島や鶴岡の地名が周知された。

実は、マネジメントの分野では、「チャレンジ」は、「課題解決」と同義語であるという。ブルネルに関連した行事で、マネジメントを専門とする大学講師に通訳を依頼したが、彼女は課題解決をチャレンジと和訳していた。

この「課題解決」チャレンジという。2018年9月6日の北海道胆振東部地震では、北海道に集まった。同時に、広域にわたる大停電は、送配電の系統制御の脆弱性を露呈した。

子となり本多家の家系を守っている。ブルネル家の場合、イザムバードには、3人の子がいたが、その家系には、曾曾孫のイザベラ・トーマスほかがいる。が、ブルネルの名前は、直系にはない。子ブルネルの姉ソフィアの子孫には、著名な彫刻家があり、ブルネル大学で行われた展示会は、筆者も観覧した。

テイマール川に架かるロイヤル・アルバート橋



2018年9月6日の北海道胆振東部地震では、北海道に集まった。同時に、広域にわたる大停電は、送配電の系統制御の脆弱性を露呈した。

▼未来・志向

対比されるのが、西日本である。電源周波数の相違、江戸文化や京文化の違いなど、東西地域には、独特の相違がある。しかし西日本には、大災害がないという事実はなく、1995年1月17日の阪神・淡路大震災、2016年4月14日の熊本地震、2018(平成30)年6月28日からの西日本豪雨など、災害は東西を問わず頻発している。

▼写真

この橋は、2スパンの長大橋であり、帆船が通ることができるとも言われる。その架橋は、レインズ状の1スパンを個別に持ち上げ施工された。したがって工期の短

▼ピンチをチャンスに

未来に向けた復興には、現実を超えた視点が必要である。被害を受けた当事者には酷い話であるが、いまこそ次世代を見通した復興を行わなければならない。ブルネルの銅像の目線は、自らが挑戦し、失敗も経験し、なお、その先を見通している。

そのためには、SDGsに代表される持続可能な取り組みを空気感として、ピンチを払拭し、未来をデザインした東北復興の現場を創造したいものである。

連載・イベント